

令和3年度 Faculty Development

「学生や大学院生とともに考えるアンプロ」 開催報告

福島医大新任教員向け FD を以下の通り行いました。

1. 目的：
 - ・アンプロフェッショナルな行動（以下アンプロ）について異なる立場の人の意見を知る
 - ・どのようなものがアンプロフェッショナルな行動になり得るのかを理解する
 - ・「プロとはなにか」について考えることができる

2. 日時：令和3年8月25日（水）16:00～17:15

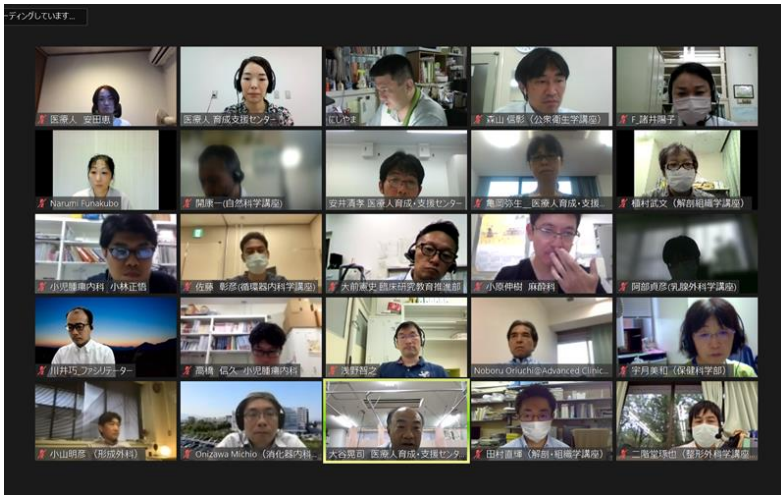
3. タイムテーブル：

時間	内容
16:00 (5分)	開会の挨拶、講師・ファシリテーター紹介 医療人育成・支援センターセンター長 主任教授 / 臨床医学教育研修部門 部門長 / 医学部整形 外科学講座 兼任教授 大谷 晃司
16:05 (15分)	講演「Cross-cultural constructions of unprofessional behaviour: What is ‘unpro’ and why is it important??」(英語) 医療人育成・支援センター 助手 Maham Stanyon
16:20 (10分)	導入「動画の提示」 医療人育成・支援センター 助手 安田 恵
16:30 (25分)	グループワーク「～アンプロ? or ノットアンプロ?～」 ファシリテーター： 医療人育成支援センター 主任教授 大谷 晃司 医療人育成支援センター 教授 亀岡 弥生 医療人育成支援センター 講師 川井 巧 医療人育成支援センター 助教 青木 俊太郎 医療人育成支援センター 助手 安田 恵 医療人育成支援センター 助手 安井 清孝 医療人育成支援センター 助手 諸井 陽子 医療人育成支援センター 助手 Maham Stanyon
16:55 (15分)	全体共有 医療人育成支援センター 助教 及川 沙耶佳
17:10 (5分)	全体 Q&A、総括 医療人育成支援センター 教授 亀岡 弥生
17:15	終了

4. 当日の様子

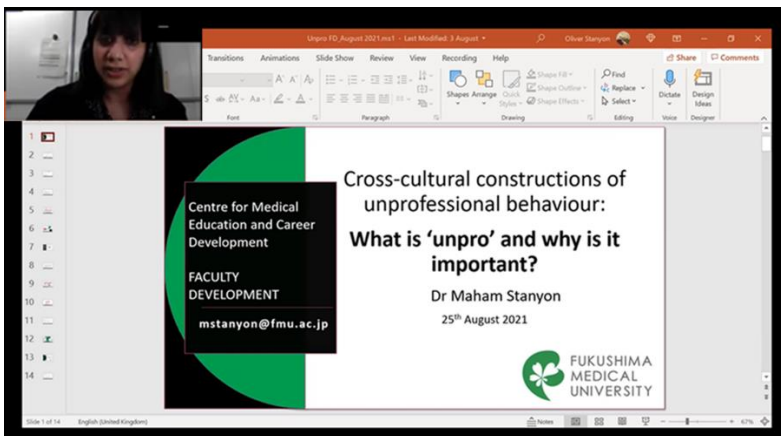
今回のFDは、Zoomを使用して完全オンラインで行いました。

はじめに大谷先生より開会の挨拶をいただき、ファシリテーターの紹介がありました。



続いて Dr. Stanyon による講演「Cross-cultural constructions of unprofessional behaviour:

What is 'unpro' and why is it important??」が行われました。この講演では、ご自身の研究内容も踏まえて、国際的な視座からアンプロの定義の難しさや文脈依存性の高さなどについて話題提供がありました



次に安田先生よりグループワークに向けた動画提示が行われ、グループワークの進め方や全体共有について説明がありました。

動画①は、ある学生実習グループが、指導教員に対して、「部活やバイトがあるのであまり忙しい実習は希望していない」、と申し出る事例です。



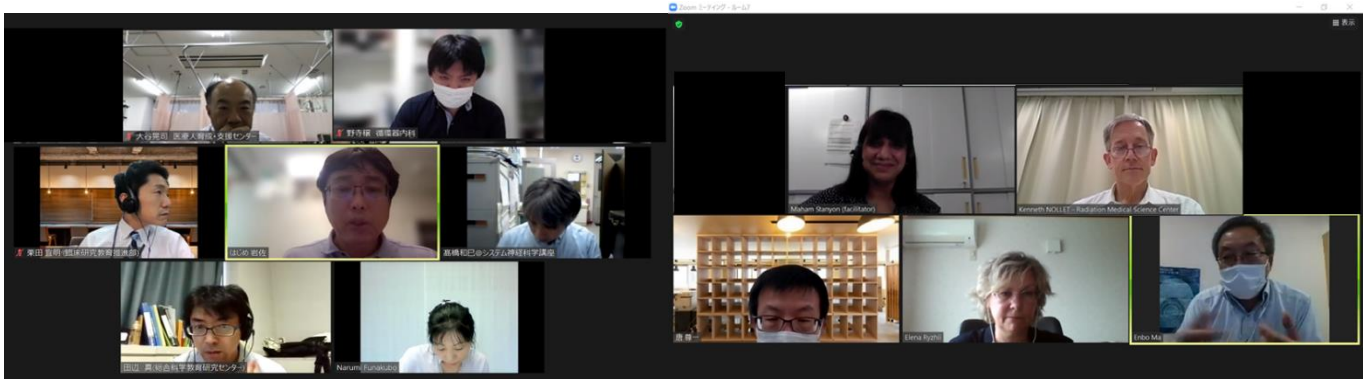
動画②は、患者さんからの贈り物をお断りする医師と、患者さんからの贈り物をもってそのまま学生に渡す医師の、両者の外来見学をしている医学生が困惑する、という事例です。



動画③は、外来を見学している学生に対して、辛口な指導医が紹介元の医師の悪口を言う、という事例です。

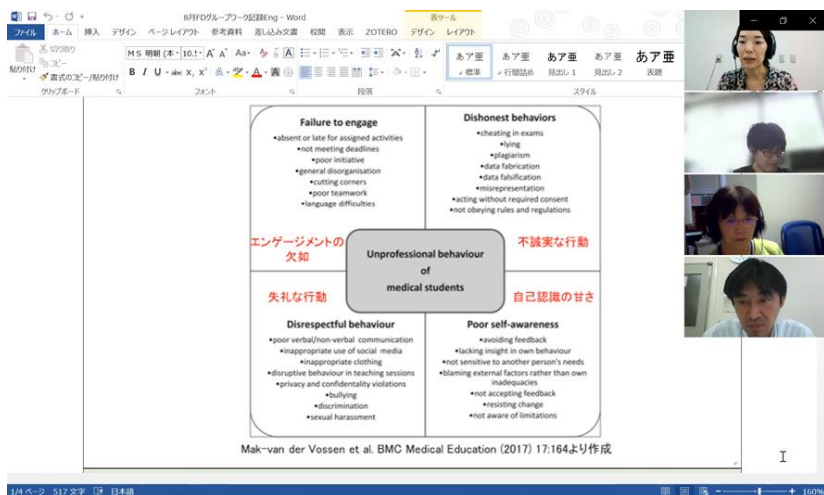


グループワークでは、各メンバーが自己紹介を行ったあと、このような事例はアンプロに該当するか、しないかについて議論をしました。その際、アンプロの枠組みを用いて検討をしてもらい、グループの意見をまとめた成果物を作成してもらいました。



各グループにはファシリテーターが1名つき、5-7名のグループで議論をしてもらいました。基礎系の先生、臨床系の先生、保健学科の先生、若い先生、ベテランの先生、海外ご出身の先生、など様々な立場の参加者がおられて、非常に多角的な視点から意見が交わされていました。

グループワーク終了後は全体共有です。



全体共有では以下のような意見が挙がりました。

- 学生の行動について、どのくらいアンプロかという点について教員の意見は必ずしも一致しなかった
- 実習を担当する教員としては学生間の同調圧力などにも目を向けるべき
- 学生実習の目的はプロとしての態度教育でもあり、その点を踏まえた学習契約を学生に示すべきではないか
- アンプロについて学生と議論してみるのもいいかもしれない
- ギフトに対しては「もの」そのものよりも患者さんの「ところ」を受け取っている、と捉えることがあり、国や文化圏が異なればギフトをもらうことの是非について、考え方は異なるだろう

最後に亀岡先生より全体 Q&A、総括が行われました。



この中で、学生へのプロフェッショナリズム教育の一環として、教員がロールモデルとなり、高いプロ意識を持った行動をすることの重要性が示されました。

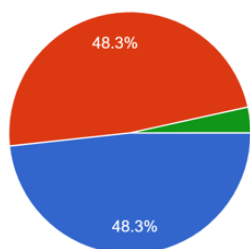
最後に、大谷先生から本学でのアンプロに対する取り組みについて情報提供をいただき、終了しました。

5. 参加者アンケートより

当日は 41 名の方にご参加いただき、29 名の方から事後アンケートの提出がありました。(回収率 70.7%)。

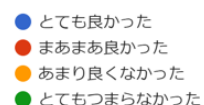
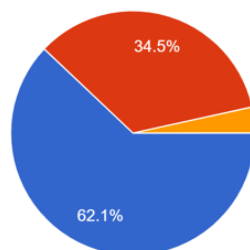
Q1 講義の内容はいかがでしたか？

29 件の回答



Q3 グループワークの内容はいかがでしたか？

29 件の回答



参加者からのコメントの一部を抜粋します。

- 重要ではあるが普段あまり考えていないトピックに関して考えるきっかけとなった
- 普段ぼんやりしていたことを、明確にすることが出来た
- 専門分野、経験などの異なる先生方との情報共有、など大変有意義でした
- (グループワークの) 時間が短かった。問いを 1~2 程度に減らしたほうがよかったと思う
- 臨床と基礎の先生が混在しており、それぞれのシチュエーションを交えて議論できたことが良かった
- 講義とワークショップとその後の解説が連動していたため awareness を高める点で有効な構成だと感じた

アンケートでいただいたご意見より、日ごろからアンプロについて問題意識を持っている教員が多いこと、しかしながらその概念について明確にする機会は多くないこと、他分野の教員とのグループワークは有意義であったことが解りました。グループワークでは時間が足りなかったというご意見を多数いただきましたので、さらなる改善点を検討し、医療人育成支援センターでは今後も様々な FD を企画していきたいと思ひます。

文責 医療人育成支援センター 及川